

下回りをのぞき込もうとしてバンパー下部に内蔵されたバックアップランプを発見。すでにトランクリッドにはトヨタ・マークと車名エンブレムが装着されている。



Photo. EDITORIAL NETWORK



レクサス
SC430じゃ
ないヨ!

正

真

正

銘

盗写!



トランクリッドの奥側にハイマウントストップランプが設置されている。両側出しのエキゾーストパイプにも注目。



98年12月号に掲載した確定イラスト。ナマ写真掲載で、その正確さと情報の早さが改めて実感いただけるはずだ。

暗

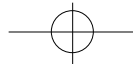
闇に潜んでいる姿を見つけた瞬間、あまりの興奮に震え上がってしまった。そんなコトバを口にしながらかメラマンが差し出した写真を見て、スクープ班デスクにもその気持ち

ちが痛いほど伝わった。

古くは98年12月号で確定フォルムをお伝えし、99年の東京モーターショーでレクサス・スポーツクーペとして初めて裸体を現したソアラ。ついにスクープ・カメラマンが正真正銘のソアラを捕らえたのだ。国内発売を01年5月に控え、レクサスSC430ではない、トヨタ・マークとソアラのエンブレムが装着された迫力ある4代目をあらゆる角度から堪能いただきたい。

外観フォルムは言つまでもなく、レクサス・スポーツクーペで明らかになった容姿そのままだ。しかし、フロントグリルに光り輝くソアラの

●はみ出し情報● 新型ソアラの比較車種として、トヨタ社内ではジャガーXKRとベンツCLKが用いられている。



▲レクサスSC430が「ソアラ」として国内投入される何よりの証拠。歴代モデルに使われてきたトレードマークが4代目でもフロントグリルで光り輝く。

▲これが本邦初公開となるソアラ市販モデルだ。プロジェクター式HIDヘッドランプはコンセプトカー「レクサス・スポーツクーペ」から継承されたアイテムのひとつ。

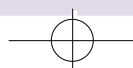


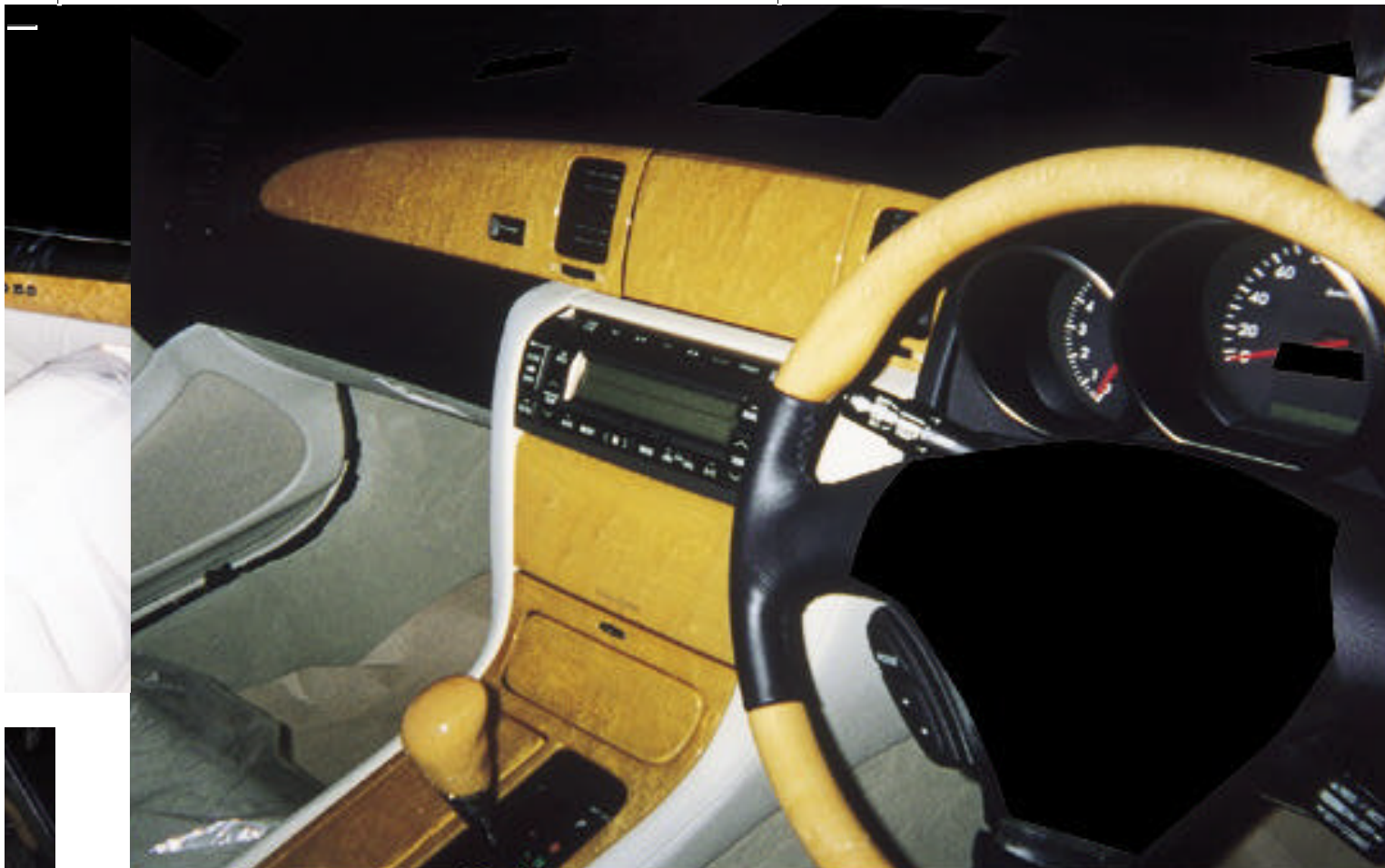
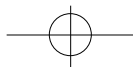
▲ボンネットフードの下にはセルシオと同じ3UZ-FE型4.3 V8エンジンが収まる。市販時にはエンジン全体がカバーで覆われる可能性が高い。



フロントコーナー部は大きく弧を描いており、切り込んだヘッドランプデザインがシャープな表情を生み出して

アルミホイールは新デザインの5本スポーク仕様。超・低扁平率タイヤがスポーティな走り味を予感させている。





▲メーブルの木目パネルがふんだんに使われ、贅沢な雰囲気がいじみ出ている。オーディオカバーにも車名が。

タンカラーのシートを装着したモデルも発見。本革と木目コンビネーションのステアリングホイールは最近の流行



国産第一級の
悩殺インテリア
市販価格は
650万円か!?

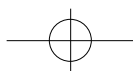


トレドマーク・トランクリッド中央のトヨタ・マーク、そして「SOARER」の文字が、まぎれもない国内向けモデルであることを物語っている。一時はソアラの名称が変更されるとのウワサもあったが、これで新型モデルも「SOARER」を名乗ることが確定した。

さらに、ドアを開けると別世界を思わせるほどの贅沢な空間が広がっていた。インパネやドアトリムに張り巡らされた本木目パネル、独立したメータークラスター、ゲート式シフトノブなど、そのラグジュアリー・テイストにはセルシオ・ユーザもうなづいてしまうだろう。大型液晶画面でシンプルにまとめられたヒーターコントロールパネルの下にはオーディオが収まるが、木目のフタによって覆い隠され、ススキリとした雰囲気と盗難防止の両方を達成。スクープしたクルマの内装写真を念入りにチェックしてみると、複数のカラーリングが存在することがわかった。かたやホワイトに限りなく近いエクリュのシートに明るいメーブルの木目パネルが組み合わされ、ノスタルジックな雰囲気だ。ようたんのシートにはミディアムフラウンの木目パネルがセット装着されていた。これ以外にも別のカラーがラインナップされる可能性もあり、幅広いパリエーションからユーザーの好みで選ぶことができる模様。

シートは本革で仕立てられ、最上の空間がもたらされる。また、シートバックにもソアラのマークがさりげなく配されているので、ルーフをオープンにした際、後続車に存在がアピールされるだろう。

ショーモデルで披露された電動メ





▲ゲート式シフトレバーにも木目が。シフトパターンからは5速ATが搭載されていることも判断できる。



▲ドアには運転席のポジションを記憶させるためのプリセット・スイッチが見える。



▲電動メタルトップを閉じた状態。リアウインドウには「低排出ガス認定車」のステッカーが貼られている。セルシオと同じ「超・低排出ガス」レベルか?

「SOARER」の文字が鮮明に見えるワンショット。リアコンビランプの輪郭線がペロッサのそれに似ている。



▲フロントシート背面に刻まれたソアラのトレードマーク。写真のシートカラーはホワイトに限りなく近いエクリュだ。

タルトップの採用にとまない、転覆事故への備えも万全だ。ロールバーに代わる補強材としてリアヘッドレスト内に頑強な骨組を内蔵。転覆時にはこれがロールバーの役割を果たす。デザインを損なうことなくこうした安全面への配慮も盛り込まれている点に、ソアラならではの賢さが見出たせる。

スケジュールを確認しておく、01年1月8日から生産が立上がり、国内に先がけて北米での販売がスタートする予定だ。一説では現地価格が520万円、800万円になるとも言われており、国内でも600万円以上に値付けされる可能性が高い。国産第一級の警沢クーペを早く拝みたいね。

読者が遭遇した 三菱スタッフの勉強会

栃木県の柴田さんから送られてきたナマ写真には、セディアワゴンとトッポBJ&ミニカ01モデルがバッチリ写されていた。添付されていたメッセージには「11月7日に宇都宮市内のホテルで目撃しました。発表前なのでスクープですよ!」と書かれていた。残念ながら本誌発売時には発表済みとなっているが、確かに目撃された日付の時点ではリッパなスクープだ。柴田さん、ありがとう! 次はキミの応募を待ってるゾ。



奥にセディアワゴン、手前には12月号で報じたトッポBJ&ミニカ01モデルが見える。比較用のカローラ・フィールダーも見逃さないでね。

▼なぜか同じセディアワゴンでも、擬装ありとなしの2種類が。

